

# そうだ 京都、行こう。

2年生が修学旅行直前なので、京都のことを書こう。

## 京都つれづれ

バリやロスに

ちょっと詳しいより

京都にうんと詳しいほうが

カッコいいかもしれないな。

美しく胸を打つ宣伝で知られる JR 東海「そうだ 京都、行こう。」キャンペーンは1993年にこのキャッチコピーから始まった。

京都へは何度行ったか。80回くらいまでは数えていたが、その後数えられなくなってしまった。優に100回は超えている。京都が好きで、年に4回とか京都に通っていた時期も長かった。大学生のころは、「佐藤と連絡が取れないときは京都に行っている」と周囲に思われていた。

京都駅に着くと「帰ってきた」気になる。京都を拠点に、奈良、大阪、神戸をずいぶん歩いた。

高校の修学旅行は京都だった。当たり前のことを書いているようだが、私たちが高校生だった1980年前後、岩手の「進学校」で関西へ修学旅行を行っていたのは水高だけで、他は東北旅行だった。私が行った1983年は、東北新幹線が盛岡～大宮間で開業した翌年で、水沢江刺駅はまだなく、バスで一ノ関駅まで行き、そこから新幹線に乗り、さらに大宮駅で新幹線リレー号、上野駅で山手線へと在来線乗り換えて、東京駅で東海道新幹線「ひかり」に乗り継いだ。当時、応援リーダー以外にもバンカラの生徒は多く、それらはポロポロの学生服と下駄のまま修学旅行に行った。「修学旅行だから着替える」ことはしなかった。やるなら徹底的に首尾一貫させる気概があった。

私が京都に初めて行ったのは小学校6年生の家族旅行。翌年も同様に家族で京都に行き、すっかり京都が好きになった。

## 班別？ 自主研修

班別自主研修の話をしよう。

班は出席番号で振り分けられたため、生徒としてはだいぶ窮屈な気がした。そのため、いくつかの班の「班別」は、ホテルを出た先の辻までと、帰宿のときだけとなった。気の合う仲間やパートナーと「研修」をした。

金閣寺、二条城など、京都の「基本の基」をすでに見ていた私は、もっと行きたいところがあった。

紅葉美しい「鳥居本」の写真を雑誌で見ている、鳥居本に行ってみたかった。鳥居本は嵐山、嵯峨野の奥。山あいの集落である。そこに「平野屋」という鮎料理店があって、古びた店構えと風情ある大きな暖簾が紅葉とも

に写っている写真を見て鳥居本へ行きたいと思っていたが、そこは嵐山の駅からかなり歩かなければならないと聞きあきらめた。鳥居本へ行ったのは大人になってからである。

龍安寺の石庭も見たかった。禅宗の世界観を石だけで表現しているのが「枯山水」といわれる石庭で、龍安寺はその代表である。

司馬遼太郎の小説『花神』『関ヶ原』を読んでいた私は、『花神』に登場する「適塾」、『関ヶ原』に登場する「大坂城」に行きたかった。「適塾」は、大村益次郎や福沢諭吉が学んだ緒方洪庵(幕末の蘭学者)の蘭学塾。大阪のオフィス街に当時のままの建物が残っている。ちなみに、この適塾が大阪大学医学部となる。国立大学が私塾をルーツに持つのはここだけで、阪大医学部を卒業していたら、「私は適塾の出身だ!」といえるだろう。カッコいい。「大坂城」はいうまでもなく豊臣秀吉が天下をつかさどった場所(しかし、現在の石垣は江戸時代に築かれたもの)。この年は築城400年記念で、その類の展示もあった。これも余談だが、「大坂」は「坂」の意味を嫌った明治政府が「阪」と書くよう改めた。

結局、私の自主研修は、龍安寺→適塾→大坂城と回った。それを旅行に行く前から周囲に話していた。

この話、ここまでは前置きで、事件はこの辺から始まる。

## 13

横山君という仲のいい友人がいた。彼は自分も大阪に行きたいと私に話してきた。しかし、私には、この目的があり、ひとりで行きたかったので、彼の話は断った。ただ、むげに断るのもおとなげない気がして、京都～大阪は国鉄と阪急が便利だが、阪急の特急に乗れば、京都の烏丸駅から大阪の梅田駅まで途中2駅ほどしか停車せず30分で行けること、しかも「特急」とはいえ特急券を買う必要はないこと、梅田駅の構内の様子…丁寧に説明した。

当日、バラバラになった私たちは、「班ごと」に帰宿するために門限17時の30分前に場所をしめし合わせて集合する手はずにしていた。しかし、皆が時刻前に集まったのに、横山君はその時刻になっても来なかった。しばらく待ったが来ない。携帯電話はもろくない。朝解散した場所に行っているのではないかと想像し、そこに行き、ホテルの玄関の方をのぞき込んだが、彼がいる気配はなかった。門限過ぎまで待った私たちは、仕方なく彼を欠いたままホテルに戻った。遅刻しながら点呼を受け、横山君がいないことを聞かれたが、なんと弁解したか覚えていない。

夕食後に新京極への買い物外出が予定されていたが、私たちの班は禁止となった。

彼は門限の1時間後に戻った。先生へなんと弁解したのだろう。私たちも、どうして遅れる羽目になったのか聞いた。大阪からの帰路、阪急電車に乗る梅田駅で迷ったそうだ。

「タカ(私のこと)が、特急に乗れば2駅停

車と話していたのに、駅の案内表示はその停車駅に13とあった。そのため、これでもいいかと迷ってしまった。」という。

阪急京都線。梅田を出ると、すぐに淀川を渡り、宝塚と神戸へ分岐する駅「じゅうそう」に停車する。「じゅうそう」は「十三」と書く。

それは漢字で書いてあったはずだ。

## 檸檬

『図書館だより』である。本の話を書くべきだ。

「四条河原町」は京都の中心にある繁華街である。そこに「駸々堂」という書店があった。1881年創業で関西に何店もあった大きな書店だったが、2000年に倒産して今はない。河原町の店舗は何階建てだったか覚えていないが、大きいながら落ちていて、関西らしい本がそろっていたため、東京では出会えない本を探しによく行った。白地に赤い馬がデザインされたブックカバーも好きだった。

河原町通りを挟んで向かい側に「丸善」もあった。丸善は「丸善ジュンク堂」として全国に店舗がある老舗の大型書店で、その京都店である。2005年に別の場所に移転した。しかし、梶井基次郎の小説『檸檬』の舞台になったところであり、移転を惜しむ客が多く、2015年に同じ場所に復活した。小説では、主人公が近くの八百屋で買ったレモンを丸善で並ぶ画集の上にそっと置いて立ち去るのだが、今も平積みされた本の上に檸檬を置いて行く客がいるらしい。

## 私のお気に入り

京都を想うと ♪ My Favorite Things が頭のCMに流れる。「そうだ 京都、行こう。」のCMに流れるメロディーである。

My Favorite Thingsは何か？

寺社、庭園、町家、工芸、料理、スイーツ、芸能、買い物…京都の切り口にもいろいろあり、さらにそれは季節ごとの彩がある。楽しみ方がある。

INOBUN という雑貨店が四条河原町にある。ファッション、生活、インテリア雑貨の店なのだが、それでも京都らしい上質な空気感が漂っていて、ちょっといいものがある。

「京都の朝はイノダから」といわれるが、京都に着いて、朝食にイノダコーヒのフレンチトーストを食べる。

これも、これも、My Favorite Things!

話せばきりが無い。

「かぶら蒸し」を食べたい。すりおろしたかぶを鯛などの白身魚の切り身の上に乗せて蒸した京都の冬の料理である。京都へは行けそうにないので、デバ地下の美濃吉に行っておこう。

(佐藤貴之)

※文中の気になった地名や語句を検索してみよう。  
※YouTube「そうだ 京都、行こう。」で検索すれば、京都の美しいCMが見られます。

# 新購入図書 おすすめの本

## 私は私のままで 生きることにした

キム スヒョン 著 ワニブックス  
韓国で50万部突破のベストセラー。

私たちはみんな、ヒーローになること、特別な何者かになることを夢見ていた。けど今では、自分のことで必死な大人になってしまった。中途半端な年齢、中途半端な経歴、中途半端な実力をもつ、中途半端な大人になった。私たちは、誰もが大人のふりをしながら生きている。

何が正解なのかわからない世の中で、誰のまねもせず、誰もうらやまず、自分を認めて愛する方法を示唆してくれる。

読んだ生徒からは好評でした



・同種の本に『私ならではの方向に、私ならではのスピードで。』があります。

## エモい古語辞典

堀越英美 著 朝日出版社

新たな表現は古語から生まれる！

「好きなキャラをエモく表現するために、感受性を爆上げしたい！」そんなとき、いちばんの味方になってくれるのは、古来、先人たちが歴史の中で積み上げてきたグッとくる表現の宝庫、「古語」です。



## 失恋ノート

一明日にはちゃんと笑っているから今日  
くらいは泣いてもいいかな

失恋ノート編集部 編 Gakken  
なぜが胸が苦しくなるどこかの誰かの恋の  
終わりの物語。

とても売れている本です



・同種の本に『私ただの女の子なんだ』  
があります。

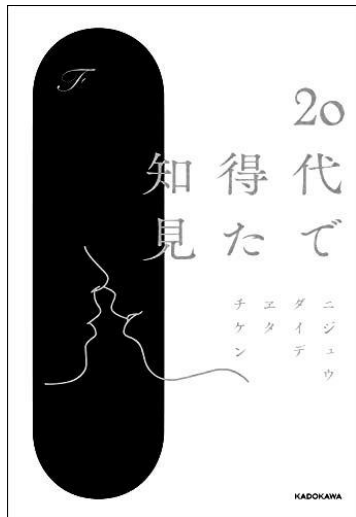
## 20代で得た知見

F 著 KADOKAWA  
辰巳出版

人生は忘れたい断片にいくつ出会い、心動かされたかで決まる。一人の人間の人生は、出会った言葉でも、預金額で決まるとも、恋愛だの結婚で決まるとも思えない。

ある夜友人が電話で語ってくれた台詞、または恋人がふとした瞬間吐き捨てた台詞、パ一で隣の男が語ってくれた一夜限りの話、なんの救いもない都会の景色、あるいは、夜道で雨のように己の全身を貰った、言葉にもならない気づき。そういったものによって人生は決定されたように思うのです。

私はその断片を「20代で得た知見」と名づけることにしました。



## 美容は自尊心の筋トレ

長田杏奈 著 Pヴァイン  
モテようとも若返ろうとも、綺麗になろうとも書いていない、化粧品もちょっぴりしか載っていない美容本ができました。

世間が勝手に決めた美のスタンダード。そこからすると抜け出して自分を慈しめる、最高の本です。



## 東大作文

西岡壺誠 著 東洋経済新聞社

読めて、考えられても、書けなければ東大は受からない。東大生による「偏差値35でもできた、誰にでも伝わる」作文術！

15万部ベストセラー。

テーマは、偏差値35でもできた「誰にでも伝わる文章」の書き方！



・このシリーズは他に『東大思考』『東大読書』『東大独学』があります。

(紹介文は、各本の出版社によるものを使用しました)